

## 「長崎の鐘」 贈呈式を挙



「長崎の鐘」の除幕



松山医学部長（左）による記念プレートの贈呈

10月13日、医学部において、医学部有志によるアンリ・デュナン博物館（スイス連邦ハイデン）への「長崎の鐘」（レプリカ）の贈呈式を挙りました。

これは、2006年（平成18年）11月、当時WHOジュネーブ本部へ派遣出向中の山下教授（現医歯薬学総合研究科長）が、赤十字の創始者であるアンリ・デュナンを記念して設立されたアンリ・デュナン博物館から、2010年にアンリ・デュナン没後100年を迎えることを記念し、平和希求の象徴として「長崎の鐘」の寄贈を直接求められたことが契機となったものです。

その趣旨に医学部有志が賛同し、河野前医学部長（現病院長）、故久松シソノ永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター名誉センター長を中心に寄付が募られ、原爆被災からの復興の象徴、そして平和の鐘として「長崎の鐘」を作製し、今回の寄贈に至ったものです。

贈呈式には、アンリ・デュナン博物館から4名の代表者が来訪し、医学部教職員、学生、学外関係者など約100名が出席し、「長崎の鐘」の除幕、記念プレートの贈呈、聖マリア学院の児童による「長崎の鐘」の合唱等の後、最後に「長崎の鐘」の音が披露され、同博物館のジョン・ボオイ氏は「世界共通の平和のシンボルであり、心に響く鐘の音である。」と感動されていました。

（平成21年11月 医歯薬学総合研究科学術協力課）